

研究開発支援拠点MieLIPの活動報告

三重県では、県内の産学官民ネットワークの体制強化、企業等の新分野への進出や研究開発の支援、製品の販路開拓支援などを行う研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)」を県内7カ所に設置しています。現在、MieLIP7拠点(三重大学、鈴鹿、津、伊賀、多気、鳥羽、尾鷲)を中心に県内企業や大学、市町などと連携しながら、地域の特色を生かした研究や製品開発に取り組んでいます。

今回は、6地域拠点の活動をご紹介します。

MieLIP鈴鹿(鈴鹿医療科学大学白子キャンパス)

MieLIP鈴鹿では、大学や企業とともに医療機器、介護支援ロボット等の開発や高度リハビリ技術の開発、医薬品・化粧品や機能性食品の開発、薬用植物の栽培技術の確立等に取り組んでいます。

1月24日には、鈴鹿医療科学大学薬学部でロボットセミナーが開催され、昨年設立された鈴鹿ロボケアセンター(株)の安永社長とCYBERDYNE(株)の久野部長が、ロボットスーツHAL®の改良に向けて地元企業への共同開発を呼びかけました。



MieLIP津(三重県工業研究所)

MieLIP津では、医療・福祉機器等の開発の技術支援や新規参入支援、医薬品・化粧品・機能性食品等やそれらの機能性素材を開発する企業への技術支援に取り組んでいます。

1月28日に開催された化粧品の機能性素材セミナーでは、一丸ファルコス(株)の坪井誠開発部長、産業技術総合研究所の高尾泰正上級主任研究員、第一工業製薬(株)の神野和人課長が、機能性素材マーケットの現状や応用技術などについて講演を行いました。



MieLIP多気(多気町役場)

MieLIP多気では、自転車を活用した運動療法や観光資源を活用した健康増進プログラム、薬草等の地域資源を活用した医薬品・化粧品や高機能食品等の開発、「食食同源」の考えに基づいた取り組みを推進しています。

MieLIP多気の自転車研究会では、(株)地域資源バンクNIUの西井匠取締役(体育学博士)が自転車通勤が健康状態に与える効果を検証したところ、4ヶ月で善玉コレステロールの数値の改善と中性脂肪の大幅な改善がみとめられました。MieLIP多気では、健康器具としての自転車の活用に着目し、事業所での健康サービスへの展開をめざしています。



MieLIP伊賀(三重大学伊賀研究拠点、上野総合市民病院)

MieLIP伊賀では、地域の企業と医薬品や医療機器の開発に取り組むとともに、上野総合市民病院が中心となって病態別栄養療法プログラムの開発や看護・介護ロボットの開発、タブレット端末を利用した在宅医療システム開発に取り組んでいます。

1月27日には、上野総合市民病院で、県内ものづくり企業を対象に、「新事業創出セミナー」を開催しました。参加者が同病院の各部署を見学した後、同病院の江藤啓司コーディネーターが「医療業界の悩みと、ライフイノベーションの果たす役割」のテーマで講演、参加企業と連携して医療現場に役立つ製品開発を呼びかけました。ものづくり企業が病院見学ができる機会は少なく、参加者の多くにとって貴重な機会となりました。

また、病院見学会後、江藤コーディネーターが見学会参加企業を訪問し、医療分野に生かせる技術についてヒアリング調査をしました。



MieLIP鳥羽(鳥羽市役所)

MieLIP鳥羽では、海藻等の地域資源を活用した化粧品や機能性食品等の開発とそれらを活用した健康ツアーの開発等の取り組みを通じて、「健康」、「美容」を切り口とした観光都市づくりに取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、海女や宿泊施設の女将等、女性が多く活躍している地域性を生かし、「心身ともに美しくなれる鳥羽」をめざして、「鳥羽旅館組合女性部あこや会」、「相差女将ちどり会」、「答志たまも会」など鳥羽の魅力が一番知っている女性団体の意見を取り入れた化粧品の開発に取り組んでいます。地域の女性たちのアイデアを具現化するために、御木本製薬(株)、鳥羽市観光協会、鳥羽商工会議所、三重大学など多方面から知恵を出し合うとともに、化粧品の販売に携わった経験豊富なアドバイザーも配した幅広いネットワークでプロジェクトを進めています。



MieLIP尾鷲(尾鷲市役所)

MieLIP尾鷲では、海洋深層水や尾鷲ヒノキを活用した化粧品や機能性食品の開発、熊野古道を活用した滞在型健康増進プログラム開発等に取り組んでいます。

2月には尾鷲市内の熊野古道を使って、健康ウォーキングの専属インストラクターを養成する「尾鷲セラピスト養成講座」を開催しました。講座では、熊野古道の歴史や地域資源の講義のほか、気候療法や生理学、安全・救急救命法やフィールドワークなど内容の濃いものとなりました。

